

えの教頭

三重県公立小中学校教頭会
〒514-0003 津市桜橋 2 丁目 142
教育文化会館別館 3 階
TEL 059 (228) 2340
FAX 059 (228) 2271
E-mail:mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



5月9日（金）に開催されました「第60回三重県公立小中学校教頭会総会」におきまして、私を含め8名を新役員として選任していただきました。これまでの諸先輩方が築かれた歴史を深く感じながら、このような重責を務めさせていただくこととなり、身の引き締まる思いがいたします。役員一同、精一杯務めさせていただきます。

さて、一昨年度までは、新型コロナウイルス感染症への対応により、私たちの教育現場も長らく制約の多い状況が続きましたが、徐々に、子どもたちが顔を合わせ、共に学び合える日常となり、嬉しさを感じています。そこで改めて実感することは、子どもたち同士の「つながり」の大切さです。関わり合い、協力し、意見を交わしながら育まれる経験は、学びに深みを与え、心の成長も促していきます。豊かな人間関係を築く力は、子どもたちがこれからの時代を生き抜いていくために必要不可欠な力であると改めて認識しています。

今私たちを取り巻く教育環境は、かつてないスピードで変化しています。急速なICT化、少子化の進行、グローバル化、さらには社会全体の価値観の多様化など、様々なことが挙げられます。このような教育環境の変化によって、

今後の学校教育の在り方や方向性等が問われる時代となってきました。しかし、これらのことは、同時に新たな可能性を私たちにもたらしているともいえます。それは、これまでの枠組みにとらわれず、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、より柔軟で、多様性を尊重する教育を創出していくチャンスでもあると切に思うのです。そのためには、私たちが互いにつながりながら連携し、経験や知恵を持ち寄り、子どもたちの未来に責任をもって向き合うことが、これまで以上に求められていると考えます。

本教頭会は、これからも「未来を切り拓く力」の育成と「魅力ある学校づくり」ウェルビーイングの実現に向けて取り組んでいくことを目的としつつ、新たに「つなぐ、つながる」を一つのテーマとしていきます。人と人をつなぐ、学びをつなぐ、ICTを活用してつなぐ等、多層的な取組を活用し、教育の継続性と発展性を見据え、次の世代の学校づくりへと「つなぐ」視点を持つことも、私たちに求められる使命だと感じています。

最後になりますが、会員の皆様方のご支援とご協力をお願いし、就任にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和7年度 県教頭会本部役員名

役 職	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
会 長	岩 本 光 正	津市立一身田中学校		
副 会 長	鈴 木 ひとみ	津市立千里ヶ丘小学校		
副 会 長	加 納 博 之	四日市市立南中学校	佐 藤 雅 美	菰野町立菰野小学校
書 記	福 永 紀世佳	伊賀市立壬生野小学校	前 智	紀宝町立相野谷小学校
会 計	小 泉 嘉 美	松阪市立第一小学校	大 島 加 愛	伊勢市立浜郷小学校

事務局 長	辻 幸 子
-------	-------

E-mail : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://mie-kyotokai.jp>



令和7年度

研修会並びに第60回定期総会が開催されました

令和7年5月9日（金）、三重県総合文化センターにおいて第60回定期総会が開催されました。三重県内の教頭が一堂に会し、盛会に行われました。議事・進行につきましても、議長をはじめ、旧役員の皆様のスムーズな運営により、予定通りに会が進行され、すべての議事が承認されました。

研修会では、ブラザー工業株式会社 コーポレートコミュニケーション部 大井 裕之（おおい ひろゆき）さんによる「人材育成と組織力向上～働きがいのある職場づくり～」の講演が行われました。

創業117年を誇るブラザー工業株式会社では、経営理念と行動規範である「ブラザーグループ・グローバル憲章」を軸に、人材育成と組織力の向上に取り組まれています。講演では、推進リーダーの大井氏より、「再構築」「心理的安全性」「コミットメント（言行一致）」「組織を越えたつながり」「振り返り」の5つの観点から、具体的な実践が紹介されました。



特に印象的だったのは、「理念の浸透は、自分自身の言葉で考え直す再構築から始まる」という言葉です。学校現場でも、学校経営目標を対話的に共有する場を設け、教職員一人ひとりが“自分事”として捉えられるような機会を持つことの重要性を感じました。また、組織力向上には、心理的安全性の確保が不可欠であり、「ありがとう」「お互いさま」と日々声を掛け合い、互いに相談しやすい関係を築くことが大切であることに気づかされました。例えば、話しかけられた際には相手に体を向け、「今は難しいけれど5分後に話そう」と丁寧に応じることが信頼の土台となり、言葉と行動を一致させること、つまり「言行一致」が信頼関係の深化につながることを学びました。

大きな変革ではなく、小さな行動の積み重ねが、働きがいのある職場づくりへとつながります。私たち教職員も、日常のひと工夫を大切にしながら、より良い組織を共につくっていきましょう。



令和7年度 県教頭会 専門部員名

◎部長 ○副部長 ◇本部

総務部	◎ 廣脇 正人 泉 祐三子	○ 東出 祥子	松長 則幸	◇ 岩本 光正 ◇ 鈴木 ひとみ
研究部	◎ 川北 喜子 平岡 一仁	○ 太田 貴志 東 道章	水谷 紀子 後藤 真弓	◇ 佐藤 雅美 ◇ 加納 博之
調査部	◎ 小宮 康子 川井 正洋	○ 大西 直美 下岡 いづみ	郡 友美 加藤 創太	◇ 小泉 嘉美 ◇ 大島 加愛
広報部	◎ 大久保 奈美 金子 彰子	○ 福間 健太郎	渥美 知美	◇ 前 智 ◇ 福永 紀世佳

令和7年度 郡市会長・県教頭会理事名

郡市名	会 長		理 事	
	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
桑名市・桑名郡	山 河 敦 彦	在良小学校	大西直美	修徳小学校
いなべ市・員弁郡	郡 友 美	笹尾東小学校	郡 友 美	笹尾東小学校
四日市市(小)	高 士 早 織	県小学校	太田貴志	笹川小学校
四日市市(中)	栗 本 健一 郎	笹川中学校	松長則幸	保々中学校
三重郡	田 中 陽 子	川越南小学校	川北喜子	竹永小学校
鈴鹿市	水 野 高 伸	深伊沢小学校	金子彰子	玉垣小学校
亀山市	廣 森 茂 樹	白川小学校	渥美知美	井田川小学校
津市北	山 川 貴 子	東観中学校	小宮康子	朝陽中学校
津市中	池 田 有 宏	雲出小学校	東出祥子	一身田小学校
津市南	小瀬古尚美	白山中学校	水谷紀子	美杉中学校
松阪市	森 井 彰 子	阿坂小学校	川井正洋	米ノ庄小学校
多気郡	大 森 清 之	多気中学校	平岡一仁	外城田小学校
伊勢市	吉 井 健	伊勢宮川中学校	下岡いづみ	東大淀小学校
度会郡	柴 山 昌 弘	度会小学校	東 道 章	南島中学校
鳥羽市	池 田 純 代	弘道小学校	廣脇正人	鳥羽小学校
志摩市	城 山 崇	志摩中学校	福間健太郎	東海中学校
伊賀市	廣 畑 由 紀	成和西小学校	後藤真弓	鳥ヶ原小学校
名張市	谷 口 久 美 子	桔梗が丘東小学校	加藤創太	桔梗が丘中学校
紀北	山 本 浩 蔵	尾鷲小学校	泉 祐三子	矢浜小学校
紀南	南 圭 輝	飛鳥小学校	大久保奈美	尾呂志学園中学校

令和7年度 新任教頭名

4月1日現在 103名

教頭会	名 前	学校名	名 前	学校名	名 前	学校名
桑名	大橋輝久 橋美香 三輪真士	精義小 桑部小 陽和中	佐久間由美子 門田美香 安田幸広	城東小 深谷小 正和中	増田友則 武藤崇史 太田秀樹	大成小 明正中 木曾岬中
いなべ市・員弁郡	水谷妙 辻村ゆり	十社小 員弁中	梅山雄一郎 八島充	笠間小 藤原中	花井智也 石原真季子	藤原小 神田小
四日市小	田中宏直 山村ゆかり 生駒富子	常磐小 八郷小 大谷台小	藤本真由美 飯場丈祥 大倉武	小山田小 小磐西小 三重北小	市川真司 巳上周啓 今井子介	神前小 三重西小 羽津北小
四日市中	渡邊佳苗	西朝明中	川村孝次郎	桜中	川村晶子	内部中
三重	山口幸子	菰野小	小林裕之	川越北小		
鈴鹿	六谷真希 岡井崇孝 土嶋英孝	稻生小 鈴西小 千代崎中	湯浅真樹 貞光祐子	飯野小 庄内小	田中治貴 田中伸悟	栄小 大木中
亀山	麻生昌宏	亀山南小				
津北	奥川麻紀子	明合小	鈴木貴子	草生小		
津中	谷本博史 伊藤浩彦 石見智彦	南立誠小 西が丘小 西郊中	奥田恵理博 森崎信博	安東小 東橋内中	志賀隆司 中川元良	大里小 橋南中
津南	斎藤祐子 藤本桂和 中川加子	成美小 大三小 久居西中	桂山典子 松田京子	栗葉小 倭小	後藤美保 武田真史	川口小 美杉小
松阪	畑中匡志 松井真理 森下圭介 徳田雅美	松江小 川小 肌小 雲中	村林真木 中西山麻美 大浦直希 重亜紀	松ヶ崎小 鶴保中 久飯高中	大西恵舞 水永端教恵	大河内小 小野江中 中部中
多気	川北仁美 岡井真央	勢和 <small>中</small> 勢和 <small>中</small>	渡邊晃子 小倉弘充	下御糸小 大台中	小掠幸太	三瀬谷小
伊勢	久保直紀 横山滋	厚生小 城田小	世古昭子	四郷小	松岡孝	豊浜西小
度会	西岡里香 小林哲	有田小 玉城中	奥美加	外城田小	足立聡子	南勢小
鳥羽	山本将也	神島小				
志摩	浦川泰空	東海小	西村聡	大王中		
伊賀	久保田彰 岡田みこ 富永健太郎 山下正和	上野北小 柘植小 崇広中 島ヶ原中	芦田覚 界外裕作 稻垣智浩	友生山小 阿城東中	中森康人 糞谷昌久 渡木正光	上野南小 大山田小 靈峰中
名張	越智和実 岡田昌利	美旗小 北中	成瀬弘和	桔梗が丘小	大杉栄介	百合が丘小
紀北	川村知子	輪内中	竹内かおり	西小	若林加奈子	赤羽小
紀南	勝田恭好 市村好一	井戸小 井田小	中田康徳 井上徳学	飛鳥中 神内小	大久保敦史 浦本龍二	御浜小 浜中

新しい風

103名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。



教頭になって

桑名市立精義小学校

大橋 輝久

4月から教頭という立場になり日々多くのことを学ばせてもらっています。教頭の仕事はとても大変だと聞いていましたが、仕事がちんとできているのかさえわからない日々が続いています。

昨年までは担任として「忙しいながらも子どもたちと向き合える日々」が中心でした。しかし今は、校内全体を見ながら、事務処理、保護者対応、職員間の調整など昨年までとは違い目の前の子どもたちとはすこし距離のある仕事が多くなりました。特に驚いたのは、同じ「教員」という肩書きでありながら、仕事内容がここまで違うのかということです。事務作業の量と責任の重さは、自分が思っている以上でした。報告文書の作成、外部との連絡、突発的な対応、敷地内の環境整備など、目に見えない業務が山のようにありました。担任をしている頃は「教頭先生はいつも忙しいんだな」と思っていたのですが、今はその理由が身に染みてわかります。とはいえ、苦労の中にもやりがいがあります。教職員が安心して働けるように環境を整えたり、学校長と共に学校全体の方向性を考えたりすることは、子どもたちの学びや育ちにつながると実感できる瞬間があります。

まだまだ今日は何をすればよいのだろうと戸惑うことばかりですが、「子どもたちと関わり続けられる教頭」でいたいと思いながら、日々努力をしているつもりです。教頭という立場になって初めて見えてくる学校の姿があり、それを知ることができた

のは貴重な経験だと感じています。その経験を今後につなげていければと考えています。



・→つなぐ→・

員弁郡東員町立神田小学校

石原 真季子

「教頭先生、おはようございます！」朝一番、元気いっぱい、笑顔いっぱいの児童からもらうあいさつが私のエネルギーの源だ。教頭として初めて赴任した神田小学校は、全校児童516名。全学年3クラス、特別支援学級4クラス、計22クラスの大所帯。教諭時代には体験したことのない規模の学校である。この1年で「〇〇さん、おはようございます！」と名前を呼んであいさつできるようになりたい。

最近、1年生の子からもらった素朴な質問は、「教頭先生は、何年何組の担任なの？」。

その時の私は、子どもを前にし「全部のクラスの担任だよ。」と答えたが、よく考えたら「職員室の担任」だった。未だ教諭であった時の意識が抜けていないことを感じたと共に、気を引き締めて職員室の先生方が笑顔で働ける環境づくりに尽力しようと思ったエピソードの一つだ。

子どもたちは日々学校生活を送る中で著しく成長していると感じる。「ずっと」ではなく「たまに」教室を訪れるからこそ気づいた、〇〇さんの変化・成長を担任に伝え、互いに喜びを分かち合うことができた。4月当初は自分の事で精一杯だったある子が、1か月经ったある日、先生の声掛けに対して、何とか仲間を助けたいと行動を起

こした瞬間に出会うことができたのだ。

一方、対話が成立しないことや、作成した書類の不備などに落ち込みそうになることもあった。しかし、教頭就任が決まった時に、ある先輩からいただいた「自己肯定感を下げる必要なし！」という言葉を手帳に貼って見返し、自分を奮い立たせている。

毎日「これで正解なのだろうか?」「また失敗してしまった!」の繰り返しではあるが、「目の前の子どもたち」のために、「みんなが笑顔で働ける職員室」めざして、日常の些細なことでも報告・連絡・相談を大切に、子どもの姿を話すことで教職員や保護者、地域の方々、諸先輩方とつながり、よりよい未来に向けた対話を続けていきたい。



心温かな人に 囲まれて

四日市市立常磐西小学校

飯場 丈 祥

4年間の教育委員会での勤務を終えて、久しぶりの学校現場での仕事。とても嬉しく、期待に胸を膨らませていました。引継ぎの時、学校長より「飯場教頭先生です!!」とご紹介をいただいた瞬間は、何とも言えない恥ずかしさと、「よし!!」と心の中でこぶしを握り締めるくらいの決意を抱いたのを覚えています。

4月になり、子どもたちとはいつ会えるかなと楽しみにしていたのですが、まず感じたのは、先生方のとてつもない多忙さでした。どの先生も、会議資料の準備、教材の選定、教室の環境整備に学級事務、会議と、「目が回るほどの忙しさ」とはよく言ったものだといわんばかりの仕事量をこなしていました。では、当の私はというと、大量に提出しなければならない書類の山に囲まれていました。つい先日まで、情報を発信する側で仕事をしていたこともあり、見たことや、関わったことのある事業に関する

仕事は比較的早く着手することができるというアドバンテージはあったものの、その学校独自の取り組み、地域とのかかわり、PTAの方々との協働活動……。わからないことだらけで、すぐに自分が飽和状態になってしまう日々でした。しかし、そんな私に手を差し伸べて支えてくれたのが、同僚でした。校長先生を始め、すべての先生方に助けられて2か月、何とか「教頭先生」を頑張ることができました。そして、子どもたちの笑顔にも救われました。

やらなければならない仕事に囲まれていた私ですが、今は、自分を助けてくれる心温かな人に囲まれて何とか頑張っています。今年はまだ序盤。「笑顔とあいさつにあふれる学校」を目指して、助けていただいた方々に何かお返しできるよう、頑張りたいと思います。



理想の教頭像

四日市市立内部中学校

川村 晶子

「理想の教頭像はありますか。」と聞かれたとき、脳裏には今までに勤務した学校でのたくさんの教頭先生の顔が次々と現れました。同時に、いろんなことを教えていただいた記憶も思い浮かびました。何か起こったときの的確な指示、生徒指導や保護者対応などを相談したときの的確なアドバイス、いろんな場面で気にかけて声をかけてもらった姿。自分もそんな風になりたいなと思いつつ、「『教頭先生!』と頼りにされたいです。」と答えましたが、理想にはまだまだ程遠い毎日を過ごしています。

昨年までは、大変そうだなあと思いながら眺めていましたが、いざ自分の番になって、次々やってくる文書、提出物に加え、「〇〇が壊れました。」「△△が……。」とこれまた次々やってくる膨大な報告や、来校者や電話。改めて、大変な役職だと感じています。うまく対応できないこともあり

ますが、周りの皆さんに助けられています。そしてありがたいことに、これまでに様々な分掌を経験させてもらったことが活かされ、「この書類書いたことがある・・・。」と分かるものがいくつもありました。これまでに経験させていただいたことに、本当に感謝しています。

最初の1か月は「教頭先生！」と呼ばれていても自分のことだと気づかず、何回か呼ばれてやっと気づいていました。気安く呼ばれたいと思っていただけにもかかわらず、残念な状態でしたが、最近はやや呼ばれ慣れてきました。しかし、まだ目の前の書類としか向き合えておらず、校長先生の「外の草の様子、見てくるわ。」という言葉にも、今は「お願いします。」としか言えていません。

でも、教室での生徒と先生方の楽しそうな様子を見て、自分がそうしてもらったように、生徒だけではなく先生方の力にもなろうと決めたことを思い出しています。先輩に言われた「これも順番順番やでね。」という言葉は、今の自分を支える言葉の一つです。あのとき感じた思いを先生方に持ってもらえるように、少しでも理想に近づくように、たくさんの人を支える立場へと着実に歩み続けていきたいと思っています。



自分にできることを 精一杯！

川越町立川越北小学校

小林 裕之

初めての土地で、教頭として新たな一歩を踏み出すこととなった私は、環境が変わるだけでなく、今までとは違う仕事に対する不安ばかりが募っていました。しかし、毎日出会う子どもたちの明るい笑顔と、教職員や地域の温かさに支えながら、少しずつ川越町という町に馴染んできたなと感じています。

教諭から教頭という立場になり、仕事の内容も大きく変わり、多岐にわたる業務に、

毎日帰りが遅くなりました。「自分に務まるのだろうか。」と思うことも多くあります。また、日を追うごとに、保護者や地域の学校教育に対する期待の大きさを知り、これまでとは違った責任の重さも感じています。でも今は、そのプレッシャーを楽しみ、「今の自分にできることを精一杯やろう」という思いを胸に、学校づくりに取り組んでいます。

教頭としての役割は、まだまだ手探りの部分もありますが、「明日も来たい。」と子どもたちも教職員も思える、そんな学校を作っていきたいという思いは変わりません。そのためにも、保護者や地域と心をつににした、『チーム学校』がキーワードだと感じています。

私は、校長先生のリーダーシップのもと、教職員とともに力を合わせて、安心して過ごせる環境づくり、保護者地域の方々とも丁寧に対話を重ね、信頼される学校づくりを進めていきたいと思っています。



「やってみよう！」の 芽を育む

鈴鹿市立稲生小学校

六谷 真希

「おはようございます。」児童会提案のあいさつ運動が始まって、いつもより元気な挨拶の声が響いてきました。元気な挨拶には笑顔が伴い、なんだか学校全体が明るくなったような気がします。先日、校長先生が運動場に落ちていたお菓子のごみを拾ってくれた子がいたことを全校児童に話してくださいました。すると、その話を聞いて、休み時間にごみを集めて拾ってきてくれた児童がいました。担任の先生がその子たちをしっかりと褒めてくださったことで、その後もごみ拾いの輪は広がり、休み時間になると校庭のごみを探し、集めてくれる子たちが現れるようになりました。

家庭訪問期間となり、子どもたちが早く帰った日の放課後、学校のインターホンが

なりました。「ごみを拾ってきました。」なんと6年生8人が分担して通学路のごみを拾って集めてきてくれたのです。「教頭先生にもらったゴミ袋を使ったよ。」「ちゃんと、分別もしてきました。」嬉しそうに差し出してくれたビニール袋には、いっぱいのごみが入っていました。こどもたちが自分たちで考えて行動する力は、こどもたちを成長させ輝かせていくことを実感しました。様々な先生の姿から、教師はこどもたちの「やってみよう」という気持ちを後押しし、見守っていくことでこどもたちの主体性を育てていけるのだと感じました。

私は教頭となり、こどもたちに直接かわることは少なくなったかもしれませんが、そんな主体性を育てていこうとする先生方を支える存在になりたいという思いは強くなりました。初めての教頭としての勤務校は、大きな学校であり、もう一人の教頭先生にはたくさんのことを教えていただき本当に感謝をしています。大きな学校には、たくさんの先生方がいます。たくさんの方との出会いから学び、職員、こども、保護者・・・周りの人を支えられる教頭になりたいです。



言葉を大切に

亀山市立亀山南小学校

麻生 昌宏

3年前まで勤務していた亀山南小学校に教頭として再度赴任しました。

当時の1・2年生が今の5・6年生です。まだまだ小さかった子どもたちが、今や学校をリードするお兄さんお姉さんとして、生き生きとしている姿は、とても頼もしく、小学校6年間の子どもの成長の大きさを改めて実感しています。

ちょうど本日の放課後、昨年卒業した子どもたちが、真新しい中学校のジャージに身を包み職員室に顔を出してくれました。「部活動は何に入ったの?」「野球部です!」

私が担任していた当時は、昆虫や生き物が好きで、虫を追いかけまわしていた子どもたちでした。聞いてみると、学校にある大谷選手のグローブを使って、芝生の運動場(本校の運動場は芝生なんです)で野球をしたことが楽しくて、それをきっかけに野球部に入部したようです。小学校に居た頃は、何度も何度も大谷グローブを職員室に借りてきては休み時間にみんなで使い、何とクラスの男子の半数以上が中学校で野球部に入部したようです。

「野球しようぜ」大谷翔平選手の投げかけた言葉は、海を越え、子どもたちに大きな影響を与えています。私も、何気なく発した一言を、子どもたちは覚えていて驚くことがあります。本校では、今年、「あいさつ」「ありがとう」の「あ」を増やすことに取り組んでいます。児童門で「あいさつ」することから私の一日はスタートします。教頭になり、学校では本当に多くの方々に支えてもらっていることを実感する毎日です。誰に対しても、「ありがとう」という感謝の言葉を率先して伝え、職務に励んでいきたいです。



自分にできることを 1つずつ

津市立明合小学校

奥川 麻紀子

この春から教頭として新たな一歩を踏み出しました。正直なところ、「教頭先生」と言われてもピンとこず、返事が一拍遅れてしまうこともまだあります。毎日が初めての連続で、目の前のことをこなしていくのに精いっぱいの日々です。そんな毎日ですが、校長先生をはじめ、事務の先生、前任の教頭先生、先輩の教頭先生方等々、たくさんの方に助けていただいて、何とかやっているという感じです。近隣の教頭先生方は、「何でも聞いてね」「こうするといいよ」と声をかけてくださり、その温かさに、緊張や不安がほぐれ、気持ちを前向きに保つ

ことができている。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

入学式の翌朝、玄関で2年生の児童に「教頭先生は、どんな仕事をしてるの?」と聞かれました。私は少し考えて、「先生たちが仕事をしやすいようにする仕事をしているの」と答えました。その子は、「ふーん」と言って教室に向かっていきましたが、自分がこの仕事に込めている思いを改めて言葉にできた瞬間のように思います。

子どもたちにとって安心して過ごせる場所であることはもちろんですが、教職員にとっても「ここでならがんばれる」という職場であることが、学校の大切な土台だと感じています。ホッとできる職員室づくり、「わからない」「困った」と言い合えるような雰囲気づくりを教頭として意識していきたいと思います。

子どもも大人も、安心して学び、かかわりあえる学校づくりを目指して、焦らず、少しずつ進んでいきたいと思っています。



子どもたちのために、 今できることを

津市立大里小学校

志賀隆司

私には尊敬する管理職がいる。出会いは、管理職になることなど全く考えていなかった30代半ばであった。その頃の私は「常に子どもたちと一緒にいたいから最後まで教諭でいる!」と考えていた。そんな中で出会ったのが、当時の教頭先生であった。初任教頭として赴任し、初日からとてもフレンドリーに職員と接していた。私も「たかしちゃん!」と声をかけてもらい、かわいがってもらった。ただ、机の上やパソコン周りは付箋だらけ。今思うと、たくさんの書類と調査。やらなければならないことがたくさんあるにも関わらず、自分の仕事より職員室の雰囲気づくりを優先してくれていたのだろう。また、来校された保護者や地域の方との関わり、子どもとの関わり、

どれも楽しそうにこなしている教頭先生を見ていると、管理職も悪くないという感覚が生まれてきた。異動となった際には、「先のことも考えていかなあかんよ」とアドバイスをいただいた。

私の担任生活最後の3年間はコロナ禍に見舞われた。今まで当たり前のようにできていたことができないもどかしさ。学校行事等も制限される中、管理職から「コロナ禍だからできない」ではなく「コロナ禍でもできることを考えよう」と言われた。「子どもたちの学びを止めない」を合言葉に、これまで通りに運動会やプールをしていくためにはどうすればよいかを考えた。そこには、賛同してくれる仲間、GOサインを出してくれる管理職がいた。「責任は私がとる」と。非常に心強い言葉であった。

学校教育の主体は子どもでなければならない。教頭となった今、同じ方向を向いてアドバイスをしてくださる校長先生のもとで、生き生きと仕事をしている自分がいる。子どもたちのために何ができるか。常に子どもファーストの視点で教育活動を進めるとともに、子どもたちのために熱くなれる職員集団、活気あふれる職員室づくりに努めていきたい。



2か月経って…

津市立大三小学校

山本桂子

教頭職に着任してから、2ヶ月が経ちました。そのたった2ヶ月の間に、強く感じたことが2つあります。

1つ目は、管理職の仕事、特に教頭職のことを、とても表面的にしか理解できていなかったと感じました。想像を上回る文書の量。学校や子どもたちを支えてくださっている地域の方々との関わり。子どもたちの安全のために通学路や学校施設など細かく点検したり、各クラス(学年)の状況を把握したり…。そんなこと、ある程度

は、教頭になる前から知っていたはずなのに……。

例えるなら、今まで舞台や映画などの作品で、役者や俳優の方の表の部分しか見えておらず、作品が出来上がるまでの苦労が見えていない、知らないということです。裏の部分の仕事が、どんなことでも綿密に計画されていないと、いろんな職種の方が動けず、結果、みんな困ってしまいます。今まで出会ってきた教頭先生たちは、そんなことを微塵も感じさせず、「私たちの相談にのってくれたり、助けてくれたりしていたんだあ……。」と改めて感じました。

2つ目は、人とのつながりの大切さを改めて感じたことです。

辞令が出てから、以前、お世話になった先輩方から連絡をいただいたり、今回の赴任した学校が、たまたま父の母校だったため、地域でお世話になっている方と知り合いだったり、それ以外にもたくさんの方々といろんなところでつながっていることがわかってきました。「合縁奇縁だなあ。」と強く感じます。この教頭職は、これまでの教諭時代とは比べものにならないくらい、多くの方々とのお出会う機会があります。これからも、1つ1つの縁を大切にしていきたいです。

大正三小学校の子どもたちは、自然の中ですくすく育ち、素直で元気な子どもたちです。そんな素敵なお子さんのためにも、まだ今は教頭として未熟者ですが、今までに出会った管理職の先輩方の姿を思い浮かべながら、少しでも早くその姿に近づけるように、努力を積み重ね、日々精進して参りたいと思います。



これまでを 振り返って

松阪市立松江小学校

畑中 匡志

「やさしくない！」

これは、以前の勤務校でお世話になった管理職の先生からよく言われた言葉です。どこが優しくないのか自分ではわからないこともありました。しかし、「やさしくない」の言葉とともにいただいた指導や助言により、相手への思いやりや配慮に欠けた考えや対応であったことに気づかせてもらうことが多々ありました。自分自身の根本のところ、相手を思いやる心が足りないこともあります。業務や事象対応が重なったときほど、周りへの配慮が欠けてしまっていました。

教頭として赴任してからの生活がまさにその状態でした。今振り返ってみても、締め切りが迫る調査・報告にただただ没頭し、自分のことしか考えられていなかった日々が続いていました。

そのような折にPTAの会議が行われました。必要資料の準備も完了し、もうすぐ保護者がみえるというときに、スリッパを並べていないことに気づきました。慌てて準備をし、事なきを得ましたが、前述のように、目の前のことだけに専念してしまい、配慮が欠けてしまっている場面でした。「やさしくない！」と言ってくれた管理職の顔が浮かぶ中で、必死にスリッパを並べていました。

50歳を目前にし、気力や体力的にいろんなことが厳しくなってきましたが、「それ、やさしいか？」と自分自身に問いかけながら、教頭業務に努めていきたいと考えています。



「学校の役割」を 問いながら

多気郡明和町立下御糸小学校

渡邊 晃子

AIチャットに、「小学校の役割を教えてください」と尋ねると「学校の役割は、子どもたちに基礎的な学力や生活習慣、社会性を身に付けさせることです。また、友達との交流や協力を通じて人間関係の基本を学びます。」との回答。

4月に赴任した学校は、不登校0の学校。そこに何かあるのかずっと探る1か月間でした。その答えを、ひとつ見つけたように思います。「子どもを箱に詰めず風呂敷で包む」かわり。教師がつくった箱にきっちり入るようではなく、その子の形に合わせたかわりです。校長がその姿勢を貫き、職員が自然と真似てる感じかなあ。しかもそのかわりを、事務職員をはじめすべての職員がこなしています。誰もがありのままの子どもの姿に寄り添い、伴走できる関係にあるということは、子どもの居場所が多いということ。そして子どもを育む場が多いということ。そりゃ、居心地がいいはずです。毎日泣いても、毎日笑って下校。そして、それを見守る職員の幸せそうな顔。そんな毎日が、子どもとそして私たち職員のウェルビーイングを育てているように感じます。

社会の変化は加速度を増し、その予測も困難。「学校の役割」についても多様な価値観が生まれているように感じます。5年間学校現場から離れていた私は、自分の目指す「学校の役割」について明確な答えがもてず、今もずっと問い続けています。しかし、ウェルビーイング溢れるこの学校で過ごした1か月間は、その問いをぐっと深めその勢いで答えに向かって動き出したように感じます。

教頭として取り組んだ1年後、再びAIチャットに尋ねてみようと思います。「小学校の役割を教えてください」と。AIに負けなく

らいアップグレードした私の姿を目指して。



新しい体験

伊勢市立豊浜西小学校

松岡 孝

ここ数年、短期間の間に、目まぐるしく立場を変えることとなりました。6年生の担任として子どもたちを見送ってから、市教委で行政の仕事に携わり、そして今年度は新任教頭として勤務しています。

率直に言って、教頭となってうまくいっていることばかりではありません。しかし、4月からのわずかな期間に、お会いした方々から「何だか生き生きしているね。」とか「楽しそうだね。」、中には「若返ったな。」とまで言われることが多いのです。

実は、自分でも教員生活の中で今が一番充実しているのではないだろうかと感じています。そのわけを考えてみると、思い当たることが二点あります。

一点目は、何と言っても現任校での出会いに恵まれたことです。学校長をはじめとする職員みなさん、子どもたちや保護者、地域の方々などが、本当に温かく迎えてくださいました。深く感謝し、自分の行動で応えていきたいです。

もう一点は、前述のように自分の立場が変わったことです。初任の頃から、始業式に始まり修了式に終わる学校リズムを、担任として二十数年間ずっと繰り返してきました。その間、過去の成功体験にあぐらをかいて、新しいアイデアや技術を試すことなく過ごした部分があったかもしれません。

そんな自分にめぐってきたのが、目まぐるしい変化の連続でした。思い返すと、経験したことのない職場環境や慣れない行政用語に戸惑いながら、ひたすら学び、考える機会がとて多くなりました。

新しく変化に富んだ体験をたくさんするほど、脳は活性化するとともに、気分も良くなるとよく耳にします。今はまだまだ学

ぶことばかりですが、充実感があるのは、きっとその実体験を重ねる日々なのだからでしょう。今後も学校がよりよい学びの場となるために、また自分自身の成長のためにも、変化をチャンスととらえ求めています。



誠実に

玉城町立外城田小学校

奥 美 加

「教頭先生、〇〇ってどうなってますか？」何かを尋ねられるたびに、ドキッとします。今の私には、多くの場合即答することができないからです。「一度確認します。」と答え、まず前任の教頭先生作の引継ぎ書を開きます。それからさらに、過去の文書を探して調べる、他の誰かに尋ねる、自分なりに理解する、回答する、という作業の繰り返しです。その間も、電話や来客への対応、メールチェック、文書作成等の業務が押し寄せ、一つひとつこなしていくのに精いっぱいです。

忙しい毎日ですが、町教委から学校現場に戻り、先生や子どもたちと共に過ごすなかで、私はやっぱり学校が好きなのだなど日々実感しています。

今、この原稿の内容について考えている私の目の前で、先生方が運動会種目の最終確認をしたり、子どもの話をしたりしています。本校の職員室では、日頃から子どもの名前がよく聞かれます。先生方が、一人ひとりの子どもを大切にしていることが伝わってきます。また、入学して間もない頃、しばらくの間泣いて登校していた1年生がいたのですが、先日、職員室の入り口で用件を伝え、特別教室の鍵を借りている姿を見かけました。担任の先生や2年生から教わったことを身につけて学校生活を送っている様子に成長を感じ、嬉しくなりました。子どもたちからはいつも元気をもらい、励まされています。

教頭として仕事をするうえで、私は誠実さを大切にしたいと思っています。忙しく余裕がないときでも、学校の全職員・子どもたち・保護者・地域の方・業者の方等、誰に対しても誠実に対応し、信頼される教頭を目指したいです。そして、今は周りの先生に助けをもらうことが多いですが、先生方が心身ともに健やかに、それぞれのもちあじを發揮して教育活動に取り組むことができるよう、支えていきたいです。



神島に赴任して

鳥羽市立神島小学校

山 本 将 也

三島由紀夫の「潮騒」の舞台となった鳥羽市の離島「神島」。人口260人、周囲一里に充たない小島に新任教頭として赴任することとなった。3月末、二十数年前に引越しを手伝ってくれた父と、当時この世に生を受けていなかった息子と親子三代で貨物船に荷物を積み込んだ。島に着き島民総出で荷物を住宅まで運んでくれる光景は昔のまま。「なんや、山本先生帰ってきたんか。」「え、教頭なんか。えらくなったんやなあ。」当時の保護者との会話が、懐かしくもあり照れくさい。

4月、学校までは徒歩で15分。波のとどろきとウグイスの鳴き声が日替わりのBGM。鳶は天の高みで両翼をためすようにかわるがわる撓らせている。

現実とはいうと、ノスタルジックな感情に浸る時間はなく、教頭業務に追われる日々。小中併設校ということもあり、神島小、神島中、神島小中の3パターンに仕事を振り分けるところから始める。同じく新任の校長と高卒新採の事務職員と1つひとつ処理をしていくうちに、「去年はどうやった？」が魔法の言葉だと気づく。

小学生5名、中学生1名、教職員12名。今年度、学校創立以来初めて小中とも入学式のない年となった。教頭業務が軽減され

てありがたいとは思わない、やはり寂しい。

初めての教頭業務に右往左往している私だが、ようやく板についてきたことがある。放課後の戸締り確認である。山本教頭先生「1月14日」、誕生日を示す廊下掲示に自分の居場所を確認する。教室に残された板書を眺め、児童生徒と教員とのやり取りを想像する。1人の子どもからよくこんなにも多様な考えを引き出せたなと感心し、前日遅くまで教材研究をしていた教員の満足気な顔が浮かぶ。職員室に戻ったら声をかけようと思い、ついつい忘れる。

これから教頭として何をすべきか、私が出会ってきた先輩教頭のように、歯車の核として機能する存在となれるか、自問自答を繰り返しているところである。



『出会い直し』の 4月から

志摩市立東海小学校

浦川 泰空

入学式の日、新入学児童と一緒に登校してきた保護者が、「うらっち、久しぶり！」と笑顔で声をかけながらかけ寄ってきてくれた。5年生だった時に担任した子が保護者となり、約25年ぶりの再会だった。「おお！久しぶりやなあ。元気にしてた？会えてうれしいなあ。困ったことなどがあつたら何でも言ってな。」などと話をした。

また、入学式の次の日、6年生の子が、「教頭先生、〇〇〇〇っていう人を知っていますか？」と聞いてきた。「うん。知っているけど…。どうして？」と返答すると、その子は、「ぼくのお父さんです。」と答えた。私は、「えっ、そうなん！よく知っているよ。あなたのお父さんが小学4年生の時、教頭先生が担任やったん。『教頭先生が会いたって言ってた。』ってお父さんに伝えといて。」と言葉を返した。

その後も、PTA総会や運動会の中で、保護者となった教え子との再会がいくつもあった。担任としてではなかったが、関わ

りがあったため私のことを覚えてくれている保護者も何人もいた。ある保護者は、「教頭先生、学校からの文書を見て泰空先生の名前が載っていたからびっくりした。早く会いたかった。教頭先生になってもあの頃のままの熱い先生でおってね。変わらんとってね。」などと話してくれた。

このようなことがあり、その都度、その教え子の当時の顔や様子、話をした内容や関わりなどがよみがえってきた。と同時に、その教え子の親から聞かせてもらった当時の思いや願いなども思い出した。

私は、保護者となった教え子たちと『出会い直し』をさせてくれた東海小学校に運命を感じた。心強くも思え、感謝もした。教え子たちの子どもとも教頭として関わることができていることにうれしさややりがいも感じた。そして何よりも、教頭としての立場をあらためて実感し、その責任の重さを感じた。教頭となった今、教職員と共に『チーム東海小』として一丸となり、子どもに対する保護者の思いや願いを大事に受け止めながら関わっていくことを大切にしていきたいという思いをさらに強くした。そうして、子どもたちだけではなく、保護者や地域の方々にも安心してもらえる、信頼される学校づくりをしていきたい。



ようこそ 柘植小学校へ

伊賀市立柘植小学校

岡田 みこ

指導教諭の3年間を含め、前任校では9年もお世話になった。久しぶりの異動、初めての学校、初めての教頭職。ワクワクよりもドキドキの方が強かった私の机に置かれた、「ようこそ柘植小学校へ」という可愛い絵とメッセージに心が和らいだ。

すべてが初めての中、何がどこにあるのか、いったい何を提出しなければいけないのか、まったくわからないままスタートして早1か月、温かい職場の雰囲気とたくさ

んの人に支えられてここまでたどり着けた。一番の楽しみは、子どもたちと一緒にいただくランチルームでの給食。子どもたちは、毎日いろんな話をきかせてくれた。

赴任して、1か月。5月の初めに「一年生を迎える会」があった。今年は、18人の新入生を迎えた。在校生が体育館で待つ中、1年生が6年生と手をつないで元気に入場してきた。正面の椅子に座り、一人ひとりインタビュー形式で名前と好きなものをみんなに伝えていく。一人ひとりをととても大切にしていることが感じ取られた。温かい雰囲気の中、縦割り班に分かれて1年生を中心にクイズ、間違い探し、じゃんけん列車などを楽しんだ。最後には、6年生から1年生にキラキラ光る手作りのメダルがプレゼントされた。6年生が中心になって準備、運営してくれた一年生を迎える会。ここにも「ようこそ柘植小学校へ」という温かい思いや、子どもたちと先生たちの笑顔があった。

放課後、忘れ物を届けに学校にやってきた1年生の胸にはキラキラ光るメダルが輝いていた。教頭として、まだまだわからないことだらけだが、子どもたちと先生たちの笑顔を守るために日々精進していこうと心に誓った。



自分らしく

名張市立北中学校

岡田昌利

3年間の主幹教諭を経て、教頭としてこの4月から北中学校に赴任しました。4月から教頭としての仕事は、これまでとは全く別の仕事に就いたのではないかと思うほど、慣れない業務で、大変な日々をなんとかやっていくというものでした。同じ競技部活をしていた先生が校長先生としていてくれるので、とても心強くいろいろ助けてもらっています。1年が経つとおおよその行うべき仕事内容がわかり、見通しが立て

られるようになるとは思っているものの、まだ経験していないことがこれからも出てくると思うので、先輩方に相談し、教えてもらいながら頑張っていこうと思います。

これまで自分が教師をする中で教師の仕事は2つあると教わりました。1つは「子どもたちを育てること」、もう1つは「教師を育てること」です。そのことを意識しながらこれまでは教諭、主幹教諭として勤めてきました。教頭となり、より教師を育てる意識を持って取り組み、自分自身も教師として、人として成長していきたいと思っています。

3年間、主幹教諭で勤めていた学校では、校長から管理職になることを勧められました。自分自身は現場で、子どもたちとともに、そして教職員とともに学校を創っていきたい思いが強かったことや校長先生があと3年で役職定年を迎えるまで一緒に勤めたいという思いもあったので3年間、一緒に働かせていただきました。その中で管理職としてのあり方やリーダーシップを学ぶことができました。また、教頭になったことを受けてこれまでお世話になった校長先生、退職された先生方が連絡をくださいました。いろいろな方々が私自身を応援し、支えてもらっていることに感謝し、これからも自分らしく頑張っていきます。



温かさに 感謝する毎日

尾鷲市立輪内中学校

川村知子

4月、新しい生活がはじまりました。先輩方から聞いておりましたが、実際は想像以上でした。ふと気が付いてパソコンの画面を見ると、やりかけの仕事がいくつも立ち上がっており、明日は大丈夫だろうかと不安が頭をよぎるそんな毎日。しかし、同時に多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいになる毎日でもあります。新年度の仕事がやりやすいようにと丁寧な引継ぎを行い、

いつでも連絡してくるよう声をかけてくださる前任の教頭先生，困ったことやお願いを嫌な顔せず対応してくれる教育委員会や業者の方々，笑顔で話しかけてくださる保護者や地域の皆さん。何より「無理せんとな。何とかなるから。」と声をかけてくださる校長先生，子どもたちと真摯に向き合い意欲的に取り組む先生方，分からないことを優しく教えてくれ誠実に仕事をしてくださる職員の方々に温かく支えてもらっています。

職員室では，日々，先生方が授業や部活，行事などに取り組む子どもたちの様子をやり取りしています。全員で子どもたちの成長を見守り，導いていこうとする雰囲気伝わってきます。お互いの良さを認め合いながら，課題に対して自然なフォローや助言をして高め合っています。自分もその会話の中にだんだん入っていきけるようになってきたと感じています。子どもたちにとって，先生方にとって，職場の方々にとって，そして学校に関わって下さる皆さんにとって，安心して力を発揮し，輝ける輪内中学校であり続けるために必要な役割が果たせるようになりたいと思います。

校長先生から「文字通り学校を管理するのが管理職」「教頭は3か月以上先のことをしているように」とご指導いただきました。教頭として信頼されるための大切な助言をしてくださいました。今の自分の成長といえば、「教頭先生」と呼ばれて「はい」と言うまでの間が少し縮まってきたくらいですが，信頼される教頭を目指して努めていきたいと思っています。



趣味について

御浜町立御浜中学校

浦本 龍二

教頭になり，1か月，一番の悩みは休日の過ごし方である。保健体育教諭時代は，家庭を顧みず『部活動が趣味です。』と公

言して行動してきた。採用時から子どもがいたが，当時野球部で土日練習試合，公式戦があり，ある日の休日（当然雨の日・・・）子どもから，『パパの仕事は何なん？』答え『パパの仕事は地面に白い線をお絵かきする仕事』，

子ども『・・・？』『パパは何で雨の日しか休まないの？』

答え『パパは雨男なん！！』

そんなふざけたやり取りをしていたせいか，長女はアイドルになるといって，本当にアイドルになり家を出ていった。（1年間）

伊勢市に赴任してからは，さらに拍車をかけるように，部活動に力を注いだ。なぜなら，陸上競技の世界に戻ったからであった。今度は，『陸上競技が趣味です。』と公言し，好きなことを思う存分させてもらった。教諭時代の最後の方で，隣の再任の先生から，『先生は，管理職試験受けてないの？』『先生みたいな人がならな〜』とぼそっと一言，ありとあらゆる管理職の先輩先生方から声をかけていただいても，『部活動が出来なくなるので結構です。』と断っていたが，その穏やかな先輩の一言だけは，すんなり入った。時期的に主幹・指導教諭の試験の時期で，もう一人，私の尊敬する当時の教頭に相談した。『それは，浦もっちゃん，主幹やろ〜』ということで，主幹教諭になり，教頭になった。主幹教諭時代は，ソフトテニス部やバレーボール部の顧問となり，趣味は継続中であった。しかし，時代は変わってきている。クラブチームへの移行が徐々に進み，先生方の働き方も変化した。

趣味に戻すと，本を読むのが好きになった。運動の専門書以外の本も好きになった。しかし，先週末は，朝からバレーボール部の写真を撮りに尾鷲へ，それからソフトテニス部，バスケットボール部の試合観戦をした。人はすぐには変わらない。こんな私ですが，毎週水曜日，地域に貢献しようと熊野のクラブチームの指導のお手伝いに行こうと思っている。やっぱり人はすぐには変わらない。

郡市だより

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくりをめざして

尾鷲市立尾鷲小学校 山本浩蔵

表題は令和7年度紀北教頭会の研修テーマである。紀北地区においては、児童数減による学校統廃合が進んでいる。昨年度末には、1校が閉校した。

また、現存する学校においては、複式学級の増が起きている。欠学年により、教頭未配置の学校も今年度は2校となっている。

また、比較的規模の大きい小中学校においては教職員定数に対して、未配置の学校が出ている。加配等が配当されたとしても、人材不足などが影響し、ここも未配置という現状が児童・生徒の教育環境づくりに課題をさらに増幅させてしまう現状である。

課題はそれだけではなく、経験年数が浅い教職員が多く、新規採用教職員だけではなく、新卒の常勤講師でさえ、担任業務を任せなければいけない。

また、教頭自身も教頭経験年数が少なく、学校運営に影響することも避けられない。

その現状がより一人ひとりの負担を増加させ、学校運営に支障をきたすようになっている。その結果、休職者が出てしまったり、その欠員も埋められなかったりしていても、各学校はその学校運営を進め、教育環境を整えなければならないという非常にきびしい現状である。

未来を切り拓く学校づくりは、教職員がいきいきと子どもたちの前に立ち、子どもたちがいきいきと学ぶことから始まると考えてい



るが、現状のままではその理想や取組には届かない。それでも、人材を確保し、育て、日々の教育活動を進めていかななくてはならない。

この課題や現状は紀北だけではなく、県内各地で起こっていることだろう。今ある人材や各学校にこれまで残されてきた取組や工夫を見直し、削減し、教職員一人ひとりの健康やライフワークバランスに応じられるように、「対話」をより大切に、負担感を和らげるために具体的な業務の削減がしっかりと時間外勤務時間に現れるような取組を進めていかなければならない。

きびしい現状をふまえて、未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくりに望みをつなげるために、各学校がより、一つのチームとしてつながり、教育活動を進めていきたい。

覚悟とともに、思考と工夫をかさねて進めていく。